

みうらトーク&トーク 平成 28 年度第 4 回

日 時

平成 29 年 2 月 4 日(土)

13 時 45 分～14 時 45 分

参加者

三浦市保育会

テーマ

保育園の今！(各保育園の現状)

三浦市保育会 会長あいさつ

三浦市長あいさつ

＜意見交換・概要＞



市長

4 園の皆さんから実態とか保護者の傾向とか、問題とか、各園からお願いしたい

上宮田小羊保育園

現状は、定員 150 名、173 名いる。特色は市から委託された子育て支援センターが併設されていることだ。8000 人程度使っているが横須賀市が 2 割だ。支援センターは安心感を与える場となっている。保護者と子供双方に必要な場所だ。他の支援センターに比べて良いと評価を受けている。センターの補助金は 3 年前に減ってしまった。当時は営業日数を減らす提案もあったが、体制はそのまま営業している。保育園と掛け持ちしながら回している状況だ。兼任は難しい。

また、園には養育困難な環境の子供達が来ている。発達障害や保護者の精神疾患などの理由だ。多様な受け入れを確保するには、保育士の精神的な負担も大きい。他市では補助金の交付で柔軟性があるが、三浦市はまだまだだ。保育園への補助金の水準も他市よりも低い水準である。

そこで、小羊保育園を卒園した保育士から質問ですが、三浦市の子育て施策の目玉はなんですか？

市長

センターの件は、今後もオフィシャルに協議して行ってほしい。課題に対応していきたい。

政策の目玉は、子育て支援策を多種多様に展開している。他市競争にも負けないよう、小児医療費の補助も年々取り組んでいる。小中学校の給食は売りの事業だ。40 年前から中学校に給食がある。待機児童は 0 として公表している。第一希望の園に行けないとかの問題はあるようだが、保育園と連携して実施させていただいている。子育てケアの問題もあるが、成長の過程でのフォローに取り組んでいることも実施している。

城ヶ島保育園 城ヶ島保育園は海や山に囲まれた大自然の中にある園だ。職員 15 名、働くお母さん職員もいる。定員が 60 名で実員は 47 人であるが、職員が足りない状況だ。求人はしたが採用できていない。

保育園で働く職員の処遇の改善などないか？

市長 職員の処遇や働きやすさを整えることができないかとのことだが、三浦市の場合は国や県の補助を受けながら実施させていただいている。制度も変わって保育士の処遇の改善の取り組みが体系化されたが、三浦市単独の施策は持っていない。今後の議論を整えていくことが必要かもしれない。行政と連携して課題解決に協議していければ。

人材確保はどこに問題があるか？

市民 昔から差別的な手当があるが、三浦市は調整手当が 3%、横須賀・横浜・川崎は 12% など、賃金格差が生じる。都心の学校を出た方は都心へむかうだろう。都心での人材確保競争があるので三浦市までは人材が流れない。保育士があつまらない理由は根深い。全国的に改善しなくてはならない。

市長 市の職員も地域手当があるが、横須賀との差額がある。根本的な解決は難しいと思うが、今後も機会を設けて人材確保の支援の仕組みなども考えていければ。

保育士経験者の情報はるか？

市民 口コミが主です。

市長 就労場所があるということは重要な事だ。処遇、働きやすさの改善は重要だ。

初声保育園 初声保育園は定員 60 名で始まった。0 歳児保育、障害保育など環境が変わってきた。都市部では保育園の増設、保育士の確保が進んでいると聞くが、ここでは定員割れし、職員の削減など処遇が悪化している。保育の現場だけでなく、設備や資料整理など負担も増している。定員に戻そうと行政も動いているが、職員が足りなく、施設への投資も必要であり、低年齢児を受け入れるのは困難だ。

園の施設改善、職員確保への援助を受けられないか？

子供が怪我をした時、子供が遊んでいる時間帯で病院にかかりたいときに市立病院にかかれないか？また、看護師に電話相談をできるようにならないか？

市長 重要なテーマだと思う。このような課題を我々が直接お話をお聞きする機会がないことがわかった。このようなテーマの話し合いはしていくべきだと感じた。市内の保育園での人材交流は難しいと思うが、テーマとして協議をしていけばよいのでは。

怪我をした時の救急のケアは市立病院が対応してしかるべきだと思うので、市役所内部の話として連携できるようにしたい。

三崎二葉保育園

現在三崎二葉保育園では 1～2 歳児の保護者が妊婦さんというケースが多くある。妊娠して出産後、上の子の退園をしなくてはならないので、不安の声が多い。途中入園希望者に低年齢児が多いが対応ができず断ったことがあった。保護者の支援も重要。

三浦市へ移住してきた人が三崎二葉保育園にも来ている。子供が病気になると仕事を休むことになる。人口減少地域の保育をどうするか？若い人たちをどう三浦市に留まらせるか？

市長

人口減少に関して、平成 7 年は 54000 人だった。当時の計画人数は 70000 人だったが、本年 1 月 1 日現在では、44446 人だった。子供の数も平成 7 年に比べおおよそ半分だ。高齢化と言える。若い生産世代の流出が問題だ。働く世代は通勤時間を 1 時間くらいと考えるようになったため、座って通勤できるモーニングウィング号を作ってもらった。しかし、三浦海岸駅からは 10 名程度しか乗車しない。当時は京浜工業地帯の雇用が地域の通勤圏だったが、今は追浜の工業地帯へは横浜市から通っている方が多い。横須賀市の人口の流出も問題だが、自衛隊の異動が多いと聞く。社会増減は少ない。そういった現状の中で、子育て支援策は住居地を選ぶ指標となっている。トライアルステイの取り組みはお試して三浦市民になることだが、待機児童がないなど、子育て支援を注目して三浦市を選んでいるようだ。トライアルステイは継続して実施していく予定だ。

雇用が最も重要で、横須賀とも連携して改善していきたい。課題は見えているが、なかなか抜本的には改善されない。転出超過の状況の中で、三浦に住んでみたいと思えるような政策を進めていきたい。今後も話をできるような機会を設けていきたい。

会長

施設側も、国の制度が悪いというのではなく、良いところを汲んでいくことも考えなくてはならない。

人材確保は子ども・子育て新制度が動いている中で、保育士不足はもう他人事ではない。新制度では、人材をどう確保し、どう養成していくか考えていくことが重要だ。勤労市民センターのハローワークでは、車の運転手や介護士などの専門職が必要で相談すると、市内の人材がどんどん紹介された。市内にも人材が埋もれている可能性がある。

また、神奈川県の人材登録制度があるが、その取り組みを始め、市内に埋もれている人材を発掘してもらえないか？小羊も二葉でも 8 割がたは元職員または在園者の保護者だった方だ。このように、口コミで探していくことで人材確保は解決できるかもしれない。何年か前までは保育園に欠員が生じるということは考えられなかった。人員の整理と不足の悪循環が起きたと認識している。

ぜひ健全な経営をすすめるためにも、市と園が手分けして努力する必要がある。

市長 保護者の考え方、クレーマーやモンスターペアレンツなどの話題は聞くが、そういった問題はあるか？

市民 一昔前はあったが、最近は少なくなった。大変ではあったが、そういった方は行動力もあり協力的だった。

市長 今後も率直な意見はぜひ、伝えてほしい。
本日はありがとうございました。

※ 公表については了承を得ております。